

令和5年度静岡県地域防災活動推進委員会 活動成果



市民撮影写真(提供:静岡市)

本年度は、続発する風水害について、委員会としての提案を資料としてとりめました。本活動成果では資料の要点をとりまとめお伝えします。

「風水害への地域防災活動の手引き」

「地域防災活動の好事例」

「自主防災組織活動好事例集」



※各資料の詳細は下記URLから御確認ください。

<https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/1040807/1030013.html>

①「風水害への地域防災活動の手引き」

ステップ

- 1 自分達の地域の風水害リスクを知る
- ↓
- 2 風水害発生時の現状の防災力を点検する
- ↓
- 3 地域として目指すべき行動を決める
- ↓
- 4 具体的な行動マニュアルを作成する
- ↓
- 5 具体化検討、体制構築、資機材整備を進める
- ↓
- 6 住民へ周知する
- ↓
- 7 訓練実施評価反省見直しを繰り返す



繰り返し

①「風水害への地域防災活動の手引き」

風水害発生時の自主防災会活動に備える為に

- 1 風水害発生時の自主防災会活動の現状と目指したい姿
 - ・風水害時の自主防災会活動の現状
 - ・風水害対応として目指していきたい姿

①「風水害への地域防災活動の手引き」

行動内容を決めていくためのポイント

1 有事

いつ(状況から、タイミングとして)

どこで(行動する場所)

何を(行動する内容)

誰が(動く人、担当)

2 平時

有事に効果的な行動ができるように備えます

①「風水害への地域防災活動の手引き」

- ・地域として及び自主防災会としての行動の備えは不可欠と考えていくべきです。目指すべき姿にはすぐには到達できません。優先順位を付けながら仕組みづくりを進めていきましょう。
- ・風水害への備えは平時(通常時)の活動が重要です。
- ・風水害については住民一人一人、あるいは各家庭での対策と備えがとても重要です。

②「地域防災活動の好事例」

現地調査

当委員会では令和5年10月に「磐田市自治会連合会防災部会」の視察研修会に合流参加させていただき甚大な被害が発生した磐田市の取材を実施しました。

②「地域防災活動の好事例」

磐田市豊岡地区について

動画差し込み

②「地域防災活動の好事例」

地域住民同志での助け合い

2回の台風経験を生かして対策強化しました。地域住民同志の助け合い行動を実現していくためには普段からのよい関係づくりがとても重要です。

②「地域防災活動の好事例」

豊岡東交流センター

動画差し込み

②「地域防災活動の好事例」

多くのボランティア活動を展開

「災害ボランティアセンター」の立上げ、各種団体、高校生有志の皆さんなどの協力をえることができました。被災地域の自治会や住民の皆さんによるニーズ把握、活動調整、ボランティアの休憩スペースや資機材保管場所確保などの行動によりとてもスムーズな活動ができました。

②「地域防災活動の好事例」

磐田市豊岡南地区

動画差し込み

②「地域防災活動の好事例」

効果的な防災組織、体制

磐田市は自治会連合会の29名の地区長さんが防災部・住民安全部総務部の3つの部会を分担、地区長さんで構成する「防災部会」が磐田市の地域防災活動を主導し、自治会(町内会)と自主防災会の防災活動を統括している体制となっています。防災部の主導で研修会、各会議、各訓練等が一体感をもって活発に実施されています。

②「地域防災活動の好事例」

貴重な災害の記録

- ・記録写真どり
- ・ボランティアの協力でドローンでの記録撮影
- ・継承のため独自に対処状況を記録
- ・兆候があったことに着目

②「地域防災活動の好事例」

磐田市平松自治会

動画差し込み

②「地域防災活動の好事例」

情報収集

- ・磐田市ニュースアプリ「ニュースダイジェスト」
- ・静岡県防災アプリの「投稿機能」
- ・新たな取組「浸水センサー」

③好事例(HP紹介)

自主防災活動好事例集



令和6年3月

静岡県地域防災活動推進委員会

問合せ先
 静岡県 危機管理部 危機情報課 情報班
 〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6
 電話：054-221-3366、2644、3694
 メールアドレス：boujou@pref.shizuoka.lg.jp

「からの避難訓練」



「情報と土砂災害」についての出前講座



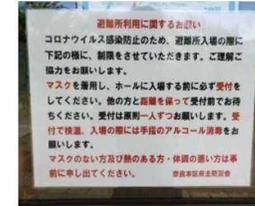
民生・防災委員が避難者となり訓練



仮設トイレ・段ボール製の衛立



管内での避難生活の例



避難所に入場する前の注意事項



受付で検温・消毒・体調チェック



通信訓練及び資器材の点検

防災協議会の訓練の様子

- 避難所に備えて非常持ち出し袋に入れたい新型コロナウイルス対策備品
- マスク ない場合はキッチンペーパーと輪ゴムで作成
 - 携帯用アルコール消毒液やジェル
 - ハンドソープ・固形石鹸 (避難所では他の人と共用しないため)
 - 使い捨てのビニール手袋 (ドアノブ、手すりや便器のふた等からの感染防止のため)
 - 体温計(避難所では他の人と共用しないため)
 - 上履き又はスリッパ(避難所では他の人と共用しないため)
- ⑥ 上履き又はスリッパ(避難所では他の人と共用しないため)
 - ⑦ ティッシュ、ウエットティッシュ、ペーパータオル、ポリ袋 (通常より多めに)
 - ⑧ 携帯トイレ (避難所のトイレが使用できなき場合に備えましょう)

https://www.pref.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/030/013/jisyuboujireisyu.pdf

③好事例(防災訓練)



③好事例(回覧物)

◇◇◇ 家庭内対策チェックシート ◇◇◇

<自宅所在地の被害想定等>

家庭内での地震対策について確認してみましょう!!

1、自宅所在地の被害想定等

□にシ点をを入れて確認してみましょう

「東伊豆防災マップ」、「津波避難マップ」や「山地災害危険地区：静岡県 GIS」等で確認してみてください

防災マップ 津波避難マップ
※マップは町ウェブサイトを確認できます

- 想定される南海トラフ地震の震度はどのくらいか(震度)
- 津波浸水想定区域内か (区域内・区域外)
- 津波浸水想定区域の場合、想定される津波の程度はどのくらいか(浸水深 m、到達時間 分)
- 土砂災害(特別)警戒区域内か (区域内・区域外)

<家族が離れているときに地震があった場合の対応>

- 各々の職場や学校等の所在地の被害想定を確認している
- 各々がどのような行動をとるか、日頃から家族で話し合っている

2、自宅の耐震化、家具類の固定、転倒対策など

<建物の耐震性と危険箇所の把握>

- 自宅建物の耐震性は確保されている →昭和56年以前の建物で耐震性に不安がある場合、耐震診断、耐震補強の検討
- ブロック塀や門柱の転倒、倒壊対策をしている

<家具類の固定>

- 自宅にある家具・大型家電等(たんす、食器棚、冷蔵庫等)を固定している
- 居間や寝室に家具類を置かないようにしている
- 家電(テレビ、電子レンジ、パソコン等)の転倒、落下防止をしている

<落下・飛散防止対策等>

- 窓ガラスや鏡の飛散防止対策(飛散防止フィルム)をしている
- 食器棚から皿やグラスが飛び出さないようにしている

地震対策で最も重要な対策は「死なないこと」「ケガをしないこと」「被災後も自宅生活できる備えをすること」です。町では、耐震診断や耐震補強工事などを対象とした補助制度があります。また、家具の固定方法についても「町ウェブサイト」に掲載していますので、御確認ください。なお、がけ地近接危険住宅移転、ブロック塀等の撤去又は改善、家庭用ポータブル発電機・蓄電池の購入等の補助金制度もあります。

回覧

区民の皆様へ



東伊豆町では9月1日に総合防災訓練が実施されました。区では例年と異なり、公民館及び農協出荷所前での訓練をやめ、区民の皆様には第1次避難所に集合していただきここで各班長さんに人員の報告をしてもらい解散としました。これはコロナ禍の中で3密を避けられないということだけではなく、昨年も残暑が厳しい炎天下の中での訓練であったこと。従来の防災訓練は災害後の避難・消火訓練や応急処置等が多く、災害が起きる前の平常時の対策、準備が意外とできていないこと。また、避難所における新型コロナ感染防止という新しい課題も持ち上がったことなどを総合的に判断し決定しました。

通信訓練や備品の点検に加え、県や町が作成した新型コロナ感染防止を考慮した避難所開設マニュアルを区独自でアレンジし、それに基づいた訓練を区評議員、道路環境整備委員、防災委員、民生委員及び高校生で実施しました。

また、新型コロナ感染防止のための備品である、非接触型の体温計、フェイスシールド、消毒液や衝立(ついでに)用の段ボール等を町の支給に先駆け、区の防災基金を活用し購入させていただきました。衝立は狭い公民館にできるだけだけの避難者を収容できるようにと考えました。何もなく2mの間隔を空け避難スペースを計画すると、昨年の台風の時の避難者を収容できないことが判りました。

そこで、既製品の衝立を購入すると非常に高価なため、厚手のダンボールを購入し役員で加工、組立式のものを25区画用意しました。

災害で一番大事なことは自分や家族の命を守ること、ケガをしないこと、できれば自宅で生活できるように日頃から水、食料、非常用トイレ等を備えておくことです。

しかし、地震災害の場合は、余震がある程度納まるまで自宅では不安だということで避難所を利用する方も多いと思います。また、昨年もそうでしたが非常に強い台風の直撃が予想される時は事前により丈夫な建物への避難が必要となります。

そのような時、皆様が新型コロナ感染を恐れ避難所を敬遠することなく、ためらいなく避難できる避難所を開設しなければならないと考えております。

これは各自防災組織だけでは対応が難しい面もあり、町と連携し進めていかなければなりません、町の体制もまだまだ十分とは言えません。今後問題点を町に提言し少しでも改善していかなければならないと考えております。

皆様も災害への備えをもう一度見直し、自助・共助を基本に何ができるか考え、いざという時に備えていただきと思います。今回は「家庭内対策チェックリスト」を作成しましたので全戸配布いたします。どうぞ活用してください。

台風等に備え土の無料配布を行っております
問い合わせは町防災課まで

令和2年9月5日
区長 ○○ ○○
区役員一同

裏面もご覧ください

④裾野市における好事例(地区防災計画)

令和 年 月 日

() 区地区防災計画(骨子)

■ 今計画(骨子)作成の趣旨
自主防災会(区)の防災上の特性を把握し、災害発生時の主要な行動、特に初動に関する準備について示すもの。

※ 本来、地区防災計画は平常時、災害警戒時、復旧・復興時の各段階毎に詳細に作成するものであるが、まずは、災害発生時の初動に焦点を当てて簡潔(定型)にあてはめて作成し、逐次内容を掘り下げ、拡充していく。

想定される災害	該当(○×)	災害種類	災害概要
○	洪水(浸水)	■ 黄瀬川・大柄沢川の想定浸水区域【浸水深】川沿い:5.0m以上、3.0~5.0m未満 その他:3m未満	写真貼付
×	土砂災害		
○	富士山噴火	■ 火口位置及びラインにより、最短黄瀬川沿い(6~12hで溶岩流到達)	
	その他		

危険箇所(写真等貼付)	■ 黄瀬川、大柄沢川沿いの護岸及び用水路等	写真貼付
-------------	-----------------------	------

人口世帯数	■ 区人口()人 男×()人、女×()人 ■ 世帯数()世帯
-------	---------------------------------------

要配慮者情報	■ 個別計画作成者数:()人 □ 高齢者 □ 障がい者 ■ 外国人情報
--------	---

その他共有すべき情報	■ 区の避難(集合場所)等 □ 場所: □ 鍵の保管者 (正):() (副):() ■ 指定避難所(広域避難地) 【一般避難所】(地震・その他災害): () (風水、土石流等): ()	写真貼付
------------	---	------

- 1 -

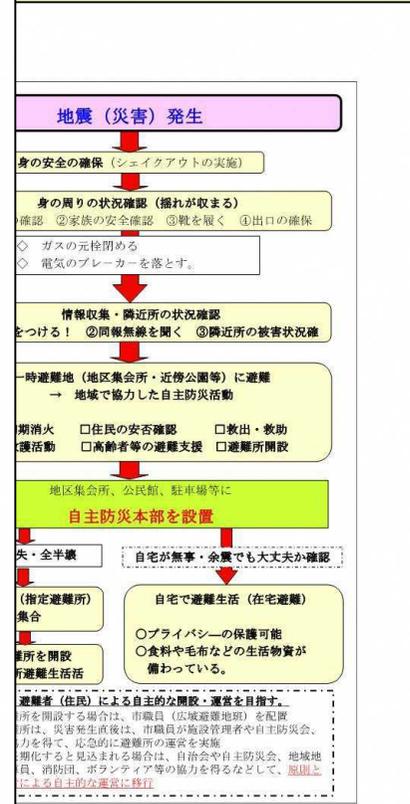


- 4 -

班時の役割(記載例)

班	災害時	平常時
情報・啓発班	・自主防災活動の指図 ・自主防災本部の運営 ・会長の補佐・代理 ・区避難所の立ち上げ	・組織の代表としての各班の ・連絡 ・等に関する ・指揮・統制 ・を担がれる ・かほ、区に ・特性に応じ ・て決定する
消防・生活班	・自主防災本部の設置 ・避難行動要支援者リスト、安否確認票準備 ・市指定避難所運営本部への参加	・会長補佐・代理 ・自主防災組織編制表の作成 ・安否確認台帳の作成 ・防災資機材整備計画の作成 ・防災知識の普及・啓発 ・自主防災活動の情報収集 ・安否確認の啓発
救出・救助班	・被害情報の把握・伝達 ・市災害本部からの情報収集 ・避難所運営本部との連絡調整 ・市災害本部(広域避難地)へ被害状況報告	・消防訓練の計画 ・自主防災組織編制表の作成 ・安否確認台帳の作成 ・防災資機材整備計画の作成 ・防災知識の普及・啓発 ・自主防災活動の情報収集 ・安否確認の啓発
衛生・救助班	・出火場所の確認 ・消火活動人員の割振り・指示 ・消防署への連絡 ・炊き出し及び食料の調達 ・飲料水・生活必需品の調達 ・在宅避難者の支援	・消火器・可搬ポンプ使用法の指導(マニュアル作成) ・消火訓練の実施 ・非常持出品の実報啓発 ・炊き出し用具の備蓄
避難誘導班	・要救助者の確認 ・救出人員の割振り・指示 ・搬送人員の割振り ・重症者・中等傷者の搬送 ・軽症者の応急処置 ・食中毒・伝染病の予防 ・し尿処理対策の実施 ・ごみ収集所の管理	・救出資機材の調達・整備 ・救出技術の習得 ・救出・救助訓練の実施 ・応急手当や衛生知識の普及 ・トイレ対策の啓発 ・ごみ対策の検討
要配慮者班	・避難誘導の指揮 ・安否確認情報の収集 ・安否不明者のとりまとめ ・在宅避難者の把握	・集会所・危険箇所等の安全点検 ・避難訓練の実施
安全点検・防犯班	・要配慮者(高齢者、障がい者)の避難誘導 ・要配慮者の安否確認の指揮 ・要配慮者の把握 ・要配慮者の避難行動支援	・避難行動要支援者の確認 ・個別計画の確認
班	・ブレーカー遮断の実施 ・ガス等の消し忘れ防止の周知 ・地域内の巡回点検 ・地域の危険物調査 ・盗難等犯罪の防止	・防災倉庫の防災資機材の管理 ・点検 ・地域内の巡回点検 ・地域の危険物調査 ・防犯訓練の実施

- 5 -



- 6 -



- 12 -

④裾野市における好事例(地区防災計画)

地区防災計画とは

「命を守る」ことを確実にを行うための行動や活動に関する事項を地区ごとに整理したものです。

①平時

- ・防災訓練、避難訓
- ・練活動体制の整備
- ・連絡体制の整備
- ・**防災マップの作成・配布**
- ・**避難路の確認**
- ・指定緊急避難場所
指定避難所等の確認
- ・**避難生活計画所の作成**
- ・要配慮者の保護等地域
で大切なことの整理

②災害警戒時

- ・情報収集・共有・伝達
- ・**状況把握(見回り・住民
の所在確認等)**
- ・防災気象情報の確認
- ・避難判断、避難行動等

③応急対策時

- ・身の安全の確保
- ・住民間の助け合い
- ・救出及び救助
- ・率先避難、避難誘導、
避難の支援
- ・情報収集・共有・伝達
- ・物資の仕分け・炊き出し
- ・**避難所運営、在宅避難
者への支援**

④復旧・復興時

- ・被災者に対する地域コ
ミュニティ全体での支援
行政関係者、学識経験
者等が連携し、地域の
理解を得て速やかな復
旧・復興活動を促進

- ・地区防災計画の内容は、地区の特性に応じて自由に作成(地域によって
例以外にも重要なことがある)
- ・例で示した一部でも(重要な部分を優先して)

④裾野市における好事例(地区防災計画)

勉強会(富士山噴火災害)

勉強会(土砂災害)

災害
を知る

市でひな形を作成
2パターン

裾野市
の工夫

地区ごとに裾野市の担当者を配置

防災交流会(他組織との連携)

三島市三恵台自主防災会を
招き先進事例を紹介

裾野市内の作成済み地区を
交えた研究会の開催

須山中学校での防災授業を実施、
生徒と自主防災組織が共同

組織の
工夫

訓練・災害シュミレーション
(DIG・HUG・イメージTEN)

防災アプリを使った訓練
(避難所支援機能)

(投稿機能)
(ハザードマップの確認)

ツール
の活用

地区防災計画作成

④裾野市における好事例(地区防災計画)

課題

- ・未作成の地区への働きかけ
- ・作成済みの地区において、計画の見直しや役員交代時に引継ぎ等行われているかの把握

改訂・見直し

- ・噴火後の溶岩流流下パターン(ライン)等の避難要領について図上演習を行い、地区防災計画の作成について
- ・社会構造・社会情勢の変化、能登半島地震の教訓を生かした計画へ

④裾野市における好事例(地区防災計画)

災害図上訓練DIGマニュアル

災害図上訓練 DIG ディグ



災害図上訓練 DIGとは？

大きな地図を囲みながら、参加者全員で地域の防災対策などを考える訓練のことで

Disaster(災害) **I**magination(想像) **G**ame(ゲーム)
の3つの頭文字を取って、
DIG (ディグ)と名づけられました。

英語の動詞「dig」には、「掘り起こす、探る、理解する」といった意味があります。「DIG(ディグ)」という名前は、「防災意識を掘り起こそう」「地域を探求しよう」「災害を理解しよう」といった、この訓練のねらいが込められています。

- 難しいルールがなく準備も簡単なため、取り組みやすく、経費もあまりかかりません。
- 地域への向き込みを工夫することにより、オリジナルの防災マップが出来上がります。
- 話し合いが盛んにつれて、目ごみ気づかなかった「地域」の災害に対する強み・弱みが明らかになります。
- DIGを繰り返し行うことにより、参加者の防災意識が一層高まります。

1

避難所運営ゲームHUG

避難所運営ゲームHUGは、避難所運営をみんなで考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。
避難者の年齢、性別、国籍などそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるのか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲームです。
参加者はこのゲームを通して要援護者へ配慮しながら部屋割りを考え、炊き出し場や仮設トイレの設置場所を考え、マスコミの取材対応といった出来事にどのように対応するかを思いのまま意見を出し、話し合いながら避難所の運営を学ぶことができます。
HUGは「H(hinanjio避難所)」、「G(gameゲーム)」の頭文字をとったものです。また、「HUG」には英語で「抱きしめる」という意味があります。「避難者を優しく受け入れる」といったイメージと重ね合わせて名付けました。

全体の手順

道具の準備	HUGセット、机、マジック等必要なものを準備します。
参加者のグループ分け	参加者を1グループ当たり6～8人程度に編成します。
HUGの概要説明	HUGの進め方の説明をします。
図上訓練(イメージトレーニング)	与えられた課題への対応をグループでディスカッションします。
振り返り・質疑応答	感想や意見交換を行います。
総評・片付け	進行役が総括した後、片付けて終了します。

自主防災組織災害対応訓練

イメージ T_EN



自主防災組織災害対応訓練 イメージTENとは？

○災害時に自主防災組織がどのように対応したらいいかを具体的に考えるイメージトレーニングのことで、**Image Training & Exercise of Neighborhood** (訓練) (英訳)が名称の意味ですが、イメージする課題が最大10題程度とされることも「TEN」の由来です。

- 参加者が自主防災組織本部の様子を時系列で疑似体験できます。
- 具体的に実践的な防災対策や災害対応が理解できます。
- グループに分かれて演習するため、参加者同士の交流や連帯感が生まれます。
- 煩雑なルールはなく、準備も簡単、経費もかかりません。

④裾野市における好事例(地区防災計画)



避難所支援機能



災害状況投稿機能

⑤熱海市における好事例(わたしの避難計画)

わたしの避難計画

わたしの避難計画

大雨の時の
河川氾濫 土砂災害

巨大地震の時
自宅に津波が来る地域
自宅に津波が来ない地域

Pattern A

Pattern B



←説明(基本)

HPリンク



動画

←作成方法
(紙で)



動画

←作成方法
(PCで)

⑤熱海市における好事例(わたしの避難計画)

わたしの避難計画とは

身の回りの災害リスクに備えて、「どのタイミング」で「どこに」避難するか、あらかじめ整理したものです。前もって、「わたしの避難計画」(通称:「わたひな」)を作成し、目のつく場所に貼っておくことで、いざというときの避難に役立ちます。

どんな災害で
・津波・洪水・土砂災害など

さらに

家族の集合場所

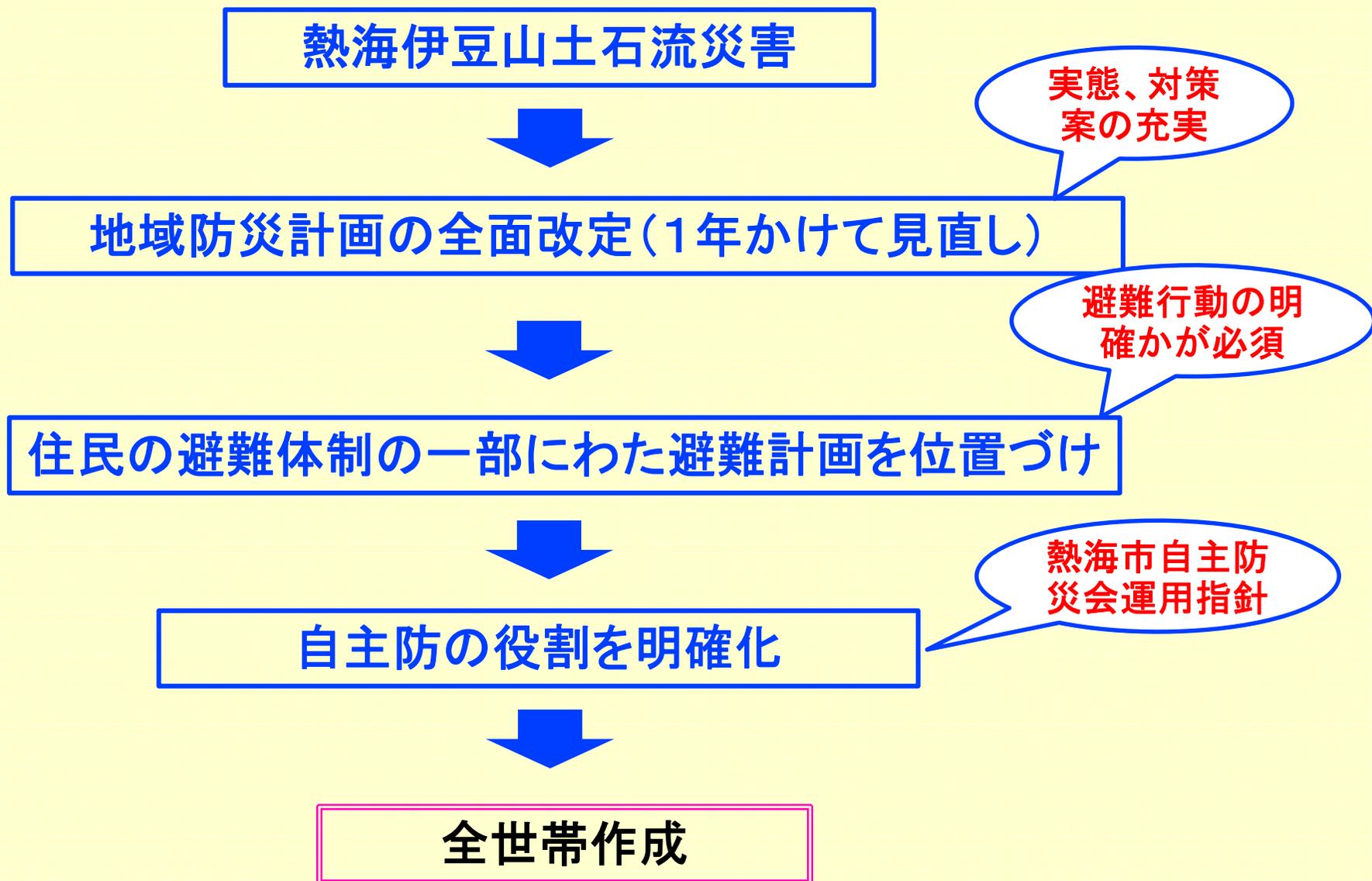
「どこに」



連絡方法
例えば171

「どのタイミング」

⑤熱海市における好事例(わたしの避難計画)



⑤熱海市における好事例(わたしの避難計画)

説明等は町内会長連合会の月例会
(自主防災組織と町内会連合会が連携)

自主防災
会の準備

町内・自主防単位の集会で自主防災組織から説明
配布は町内会の各戸配布ルート

地区ごとのハザードマップと津波浸水想定区域図
津波到達時間図

災害を
知る

作成ガイドは各地区ごとに作成印刷
(ひな形の作成)

作成上
の工夫

熱海市、東部地域局の出前講座で作成指導
作成ガイドの印刷は全て県が実施

行政の
支援

全世帯作成のために

⑤熱海市における好事例(わたしの避難計画)

自主防災会長と町内会長の兼務比率が高く進め方を浸透しやすかった

河川氾濫想定地域ではないため「マイタイムライン」の設定は無かったので「わたしの避難計画」への一本化、集中がしやすかった

災害想定が津波と土砂災害であり住民への展開が比較的容易であった

作成が進んだ背景には

⑤熱海市における好事例(わたしの避難計画)

作成上の課題

- ・全家庭まで展開するには相当な周知パワーが必要
- ・地区ごとの作成ガイド作製は非常に手間がかかる

作成後のフォロー

- ・わたしの避難計画を元に津波避難区域で避難訓練を実施
- ・個別避難計画作成の作成

わたしの避難計画の作成を通じて

- ・新たな情報収集手段として市メルマガ、LINE
- ・総合防災訓練の際、高齢者のスマホ設定支援を熱海高校生により展開

⑥風水害チェックリスト

自主防災組織防災力チェックリスト(風水害対応編)

チェック項目	○▲×- を記入
地域の風水害危険性の把握	
1 地域の風水害リスクとレベルを把握している	
2 土砂災害の危険性がある急傾斜地や盛土箇所を把握している	
3 洪水時の浸水範囲、過去に浸水した場所について想定している	
4 防災まち歩きを実施し、地域の防災マップを作成している	
5 地域の防災マップやハザードマップを住民に配布している	
避難場所への避難	
1 地震、風水害、火山噴火など災害毎の避難方法が周知されている	
2 地域の防災マップやハザードマップを確認し、「わたしの避難計画」などで各家庭で避難計画経路を作成している	
3 風水害時の垂直避難、水平避難について説明している	
4 夜間の避難を想定している	
5 参考とする水位観測所を決め、避難を判断する水位が決まっている	
6 避難のタイミングを逸した場合の対処方法が決まっている	
風水害発生時の初動活動体制について	
1 安否確認の手順が決まっている	
2 安否確認に必要な世帯台帳や地図を準備している	
3 避難行動要支援者の安否確認と避難支援方法が決まっている	
4 地域住民が救出、救護の訓練を実施している	
5 応急救護、救出救助、情報通信など、資格・技能を持つ人材を把握している	
避難所について	
1 風水害時の避難先が決まっており住民へ周知している	
2 緊急対応用の臨時避難先を用意している	
3 避難所の開設、運用の体制が決まっている	
4 避難所の開設、運用の訓練を実施している	
5 隣接地域、隣接市町と避難所の相互利用について取決めをしている	
風水害関係の情報収集・伝達体制について	
1 市町の災害対策本部との情報連絡担当、副担当が決まっている	
2 市町の災害対策本部との連絡方法を把握している	
3 テレビ、ラジオ、防災アプリ、ネット等による情報収集体制ができています	
4 自主防災組織から班、組、各家庭への情報の収集・伝達体制ができています	
5 情報伝達ができない場合の対応を検討している	
風水害災害発生時の危険な兆候（前兆現象）の伝承について	
1 過去に起こった災害の記録が残っている	
2 過去の災害時の気象状況が残っている	
3 危険な兆候（前兆現象）が伝承されている	
4 危険な兆候の確認方法が決まっている	
5 危険な兆候を発見したときの対処方法が決まっている	

防災訓練について	
1 防災訓練の年間計画を立てている	
2 総合防災訓練、地域防災訓練、津波避難訓練などの訓練を実施している	
3 風水害を想定した訓練を実施している	
4 避難、救出、救護、避難所運営訓練など様々な訓練を取り入れている	
5 単身世帯、集合住宅、外国人など様々な人が訓練に参加している	
6 訓練結果を教訓に地区の防災計画や行動マニュアルを見直している	
避難行動要支援者について	
1 避難行動要支援者名簿などを元に避難行動要支援者台帳を作成している	
2 風水害を想定した避難行動要支援者の避難・誘導訓練を行っている	
3 避難行動要支援者の居住が分かる地図を作成している	
4 避難行動要支援者台帳を定期的に更新している	
5 要配慮者の名簿は施設できる場所等の保管管理方法が決まっている	
要配慮者への支援について	
1 普段から要配慮者と交流している	
2 公的機関や福祉関係団体と連携している	
3 避難場所に避難できないときの対処方法が決まっている	
4 要配慮者の名簿を作成している（支援希望の有無を確認している）	
5 要配慮者の居住が分かる地図を作成している	
6 要配慮者の名簿は施設できる場所等の保管管理方法が決まっている	
7 要配慮者の情報をどのような場合に使用するか決まっている	
風水害時の自主防災組織災害対策本部の運営について	
1 自主防災組織から班、組、各家庭を応援する態勢が検討されている	
2 班、組、各家庭が応援を要請する手順が決まっている	
3 災害対策本部の人員確保について検討されている	
4 災害対策本部の招集基準を決めている	
5 応援行動に必要な機材の準備ができています	
6 夜間を想定した応援態勢を検討している	
7 災害対策本部の安全を優先し現地での応援行動をしない場合を決めている	
食料、飲料水、携帯用トイレなどの備蓄について	
1 市町の備蓄計画を知っている	
2 各家庭の7日以上の飲料水、食料、携帯用トイレの備蓄をすすめている	
3 防災訓練で給食、給水訓練を実施している	
役員交代に伴う引継ぎについて	
1 引継ぎ事務のチェックシートがある	
2 引継ぐ書類、データがきちんと保管されている	
3 役員交代を関係者に周知している	
4 新役員に対する研修を実施している	
5 新役員に対する旧役員のサポートがある	

【チェック記号の意味】
 ○ 対応している
 ▲ 現状では不十分
 × 対応できていない
 - 対象外

⑦避難所運営マニュアルの監修



⑧避難生活の手引き監修

